

◎アムロジジンOD錠, ○アムロジピンOD錠, ▼ノルバスク錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】アムロジピンベシル酸塩 (U) Amlodipine Besilate 【分類】Ca拮抗薬

【単位】◎2.5mg・◎5mg・△10mg/OD錠

【常用量】■高血圧症：2.5～5mg/日 [最大10mg] ■狭心症：5mg/日

【用法】1日1回

【透析患者への投与方法】減量の必要なし (1, 3, Kungys G, et al: Eur J Clin Pharmacol 59: 291-5, 2003, 腎と透析 43:745-51,1997, 透析会誌 31:45-51,1998) ビンプロロールによる降圧療法よりもLVMI低下作用が大きい (Youssef AM, et al: Medicine (Baltimore) 2021 PMID: 34941131)

【保存期CKD患者への投与方法】減量の必要なし (1,3,10,12)

【特徴】穏やかな作用発現と長い作用時間を持つ1日1回タイプのCa拮抗剤。急激な血中濃度の上昇がなく、急激な血管拡張もないため、反射性の交感神経亢進からの副作用（頭痛・フラッシング・頻脈等）が見られない。

【主な副作用・毒性】劇症肝炎、肝機能障害、黄疸、横紋筋融解症、めまい、動悸、浮腫、洞房又は房室ブロック、顔面紅潮、頭痛、消化器症状、頻尿、味覚異常、歯肉肥厚、発疹、掻痒、血小板減少、白血球減少、無顆粒球症など

【モニターすべき項目】血圧、ECG、心拍数 (U)

【吸収】食事の影響を受けない (1,U) 96% (1)

【F】64～90% (U) 74% (13) 64% (1)

【tmax】6～12hr (U) 7～8hr (1)

【代謝】ほとんど肝で緩徐に代謝され代謝物に活性なし (U) 代謝には主としてCYP3A4が関与 (1)

【排泄】尿中未変化体排泄率3% [24hrまで] (1) 8% [144hrまで] (1) 5% (U) 10%以下 (10,12) 10% (13) 尿中回収率59～62% (U) 胆汁・糞中排泄20～25% (U) 【CL】7mL/min/kg (1) 358mL/min (10) 5.9mL/min/kg (13) 【非腎CL/総CL】90% (10)

【t1/2】33～39hr (1) 35～50hr (10,12) 30～50hr (U) 39hr, 高齢者・肝障害で延長 (13) 【透析患者のt1/2】腎障害では影響を受けず (U) 50hr (10,12)

【蛋白結合率】97.1% (1) 95～98% (U) 92～95% (11) 93% (13) 95%以上 (12)

【Vd】21L/kg (1,U,12) 16L/kg (13)

【MW】567.05

【透析性】透析されない (1,U, Kungys G, et al: Eur J Clin Pharmacol 59: 291-295, 2003)

【TDMのポイント】TDMの対象にはならない【OW係数】～30 (11) 26.1 [1-オクタノール水系, pH7] (1) 【pKa】8.85 (1)

【相互作用】CYP3A4阻害剤、誘導剤併用による影響を受ける (1) GFJの成分が代謝を阻害して降圧作用が増強するおそれ [回避には3～4日空ける必要あり] (1) シンバスタチンのAUC上昇 (1)

【効果持続時間】24hr (U)

【備考】効果発現が緩徐であるため、緊急な治療を要する不安定狭心症には効果が期待できない。

【更新日】20240530

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。